

# 職業能力開発と学生支援のための 女子会の取り組みについて

島根職業能力開発短期大学校 岩本 智美

## 1. はじめに

これまでのものづくり産業では、「キツイ・汚い・危険」のいわゆる3Kの負のイメージが先行することに加え、男性中心の業界であるというイメージから、女性の職業としての選択肢になりづらく、女性労働力の活用は少なかった。現在の日本は少子高齢化が急速に進展した結果人口減少時代を迎え、労働生産人口が減少している。すべての産業界と同様に、製造業や建設業といったものづくり産業でも労働力の不足感は強く、この労働力不足解消には、女性を含めた多様な人材の活用が重要である。近年の「働き方改革」によって、多様かつ柔軟な働き方を実現する人材活用や、福利厚生の見直しなどにより働きやすい環境が整備されつつあること、職種の多様化により女性が活躍できる場が増えたこと等から、ものづくり産業において「ものづくり女子」と呼ばれる、ものづくりの現場に携わる女性の数は増加傾向にある。今後、ものづくり業界では、女性特有の発想や細やかな気配り等を大いに生かして、女性がますます活躍することが期待されている。

島根職業能力開発短期大学校（以下「当校」という）は、ものづくりに携わる人材を育てる工科系短期大学校である。当校では、ここ数年女子入校者数が増加の傾向にあるが、それでも全学生数の二割に満たないのが現状である。女子学生をものづくり女子としてのものづくりの現場に送り出すためには、少数派である女子学生が安心して勉強に取り組むことができ、満足度の高い二年間の学校生活を送れるこ

とが重要である。そのためには適切なケアが必要であると考え、当校では平成30年度に「女子会」を発足、女子学生を対象にしたあらゆる支援の場として活用し、女子学生の満足度向上に努めている。

本テーマでは、今年で四年目を迎えた女子会について、これまでの活動とその効果について述べることにする。

## 2. 島根職業能力開発短期大学校の入校状況

当校には、生産技術科、電子情報技術科、住居環境科の三科が設置されており、令和3年度入校生の定員は生産技術科15名、電子情報技術科20名、住居環境科20名の合計55名である。令和3年度の入校者数は50名で、平成28年度から続いた徐々に増加傾向から減少に転じたが、入校生に占める女子学生の割合は、過去8年間で最も少ない平成27年度の2.5%から13.5ポイント増加し、16.0%であった。（表2-1、図2-1）しかしながら、まだまだ女子学生が少数派であることがわかる。

文部科学省の学校基本調査によると、大学入学者のうち工学部への入学者数が徐々に減少する中で、工学部への女子入学者数は増加しており、全国的にみても工学部を志す女子学生が増えている。（図2-2）当校の女子入校者のほとんどは建築系の住居環境科に所属している。建築は、人間の暮らしに欠かせない「衣食住」の一つ「住」について学ぶため、工学部の他科と比べてより身近であり、その必要性を認識しやすく、設計やインテリアなど女性が興味を持ちやすい分野も多いことから、女子入校者数が多いと考えられる。

表2-1 当校入校者数の推移（平成26年度～令和3年度）

年度	入校者数（うち女子入校者数）				女子割合
	生産技術科	電子情報技術科	住居環境科	計	
H26	17 (1)	23	13 (2)	53 (3)	5.7%
H27	6	22 (1)	12	40 (1)	2.5%
H28	11	16	20 (3)	47 (3)	6.4%
H29	14	15 (1)	23 (4)	52 (5)	9.6%
H30	13	17	25 (6)	55 (6)	10.9%
R1	12	22	23 (4)	57 (4)	7.0%
R2	16	21 (2)	23 (5)	60 (7)	11.7%
R3	9	20 (2)	21 (6)	50 (8)	16.0%

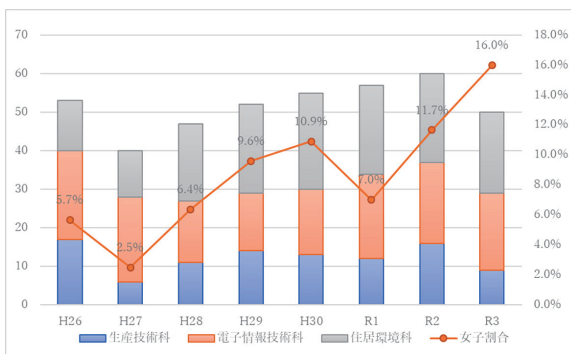
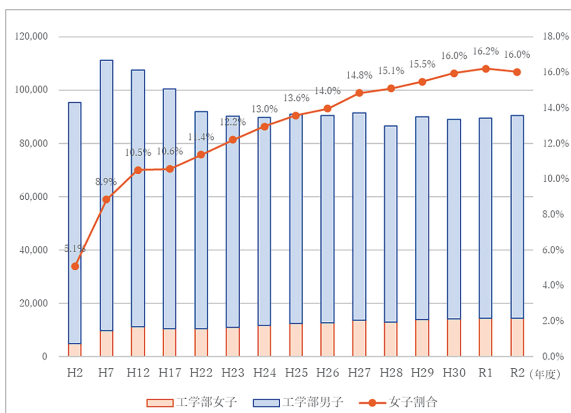


図2-1 当校入校者数と女子入校生の割合



文部科学省「学校基本調査」により作成

図2-2 工学部入学者数と女子入学者の割合

### 3. 当校女子会の概要

平成30年、当校では女子学生を対象に、学生同士の交流や学校生活の支援を行うため、「学生同士の情報交換、女性職員とのコミュニケーションの場を設定し、学校生活での不安解消や学校との信頼強化などを目的とし、女子学生の満足度向上や業務運営の改善に資すること。併せて、女子会を取材し今後の広報の一助とする。」という趣旨のもと女子会をスタートした。女子会は、学校生活での不安解消や学年・科をこえて交流を深めることはもちろん、女子学生が少数であるため、見落としが起りやすい校内環境を考えたり、女子学生に必要な情報提供の場として、また女性職員とのコミュニケーションの場として、四半期に一回をめぐりに実施している。当校では行事や振替授業等の時間を確保できるよう、通年水曜日の午後は授業が入っていない。女子会は、できるだけ多くの学生が参加できることを考慮し、原則水曜日の午後1時から約2時間程度で実施している。学生たちは、終了の時間が過ぎても話が尽きないほど盛り上がるため、女子会への参加を毎回楽しみにしてくれている。

年度当初は、早期に所属科や学年を超えた交流を図ることを目的に学生同士の顔合わせとし、年度末には2年生の送別会を兼ねた企画、その他にも茶話会や季節に合わせた企画、職業意識向上のための企画などを、スイーツやお菓子、お茶やジュースなどを準備して実施している。「おいしいもの」は参加する動機づけになるだけでなく、地元で評判のケー

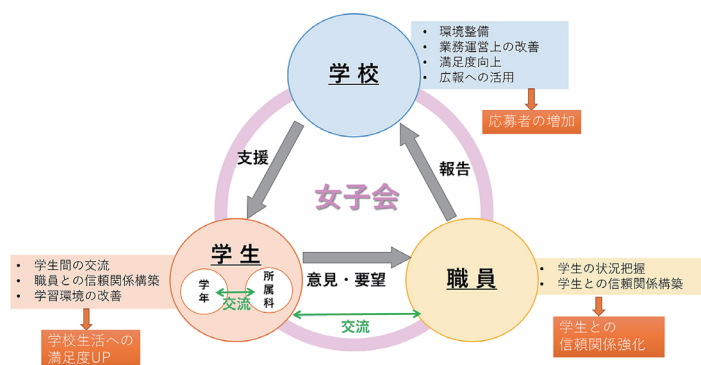


図3-1 女子会の概念図

キやおいしいお菓子を前にすると場が和み自然と会話が生まれる。中には写真を撮ってSNSに投稿する学生もいて、学生自身が女子会広報の役割を担ってくれるというメリットも生まれる。

参加者は女子学生と女性職員としているが、実施にあたっては、全職員へ女子会実施案内のメールを送信し、性別を問わず業務に支障のない範囲での参加を呼び掛けている。ピザ窯の火起こしがうまくいかない時は、アウトドアの得意な男性職員に手伝ってもらったり、女性アルバイト職員の方が多く参加した回では、女子トークがいつも以上に盛り上がりなど、これまでも多くの職員が参加してきた。

女子会の実施状況はマスコミやSNS、学校情報誌等を通じて随時情報発信したり、高校生向けの進路ガイダンスや学校紹介、オープンキャンパスなど外部に向けた学校紹介の際に女子会の説明を行うなど、より多くの方に広く知っていただく取り組みを行っている。



写真3-1 SNSによる情報発信



写真3-2 高校進路指導担当者へ女子会の紹介

#### 4. 女子会の実施体制

発足当初は、初回は学務援助課が事務局となって実施することが決まっているのみで、その後については未定だった。願わくは学生が自主的に女子会を企画し、運営してくれる体制にしたいところであったが、学生は学校が実施してくれるものという意識が強く、学生主体の体制作りは難しかった。学生たちに女子会運営の負担がかかり過ぎると、女子会の必要性すら否定されることも危惧され、本来の目的である満足度向上や学校生活の支援が十分に行き届かなくなるとは本末転倒である。そのため学生主体の体制づくりを強く進められなかった。女子会で集まることが楽しい、そしてもっと楽しいことを自分たちで企画したいと思ってもらえるだけのメリットを提示できなかったことは反省点である。また女子会開始当初は、職員側の役割や体制も明確ではなかったため、職員同士の意思統一や連携が不足している面も多々あり、実施体制が万全に整った状態であるとは言いにくかった。令和2年度に女子会は当校の事業として職員が実施するものと整理され、現在女子会担当職員が、必要に応じて他の職員の協力を得ながら、企画・運営を行っている。

#### 5. 女子会の開催状況

平成30年度から令和3年7月現在までに計15回の女子会を実施している。(表5-1) 女子会は、学生が勉強の合間にリラックスできる時間となっており、参加が義務ではないにも関わらず、学生の平均参加率は82.4%と高く、多くの学生に参加してもらったことがわかる。参加率が半分程度の回は、女子会開催の周知不足および授業担当者との調整不足が原因で女子会と振替授業の日程が重複したためである。

##### 5.1 顔合わせ会、送別会

年度当初は、学生同士および学生と職員の顔合わせとして茶話会を実施。毎年、趣味やアルバイトなど日常生活のこと、授業や学校生活についてなど、

表5-1 女子会の実施内容と参加状況

開催日時	内容	参加者		参加者内訳										
				1年生		2年生		職員						
				学生	学生参加率	職員	電子	住居	電子	住居	指導員	学務	総務	その他
<b>平成30年度</b>		<b>在籍女子学生数</b>		<b>11</b>										
5月16日(水)	13:00~14:30	茶話会	10	90.9%	4		6	1	4					
7月18日(水)	13:00~15:00	ワークショップ 浴衣の着付け	6	54.5%	5		5	1		1	4			
12月5日(水)	13:00~15:00	クリスマスリースの制作と焼き芋づくり	8	72.7%	5		4	1	3	1	4			
2月13日(水)	13:00~14:00	送別会	8	72.7%	4		5	1	2		4			
3月14日(木)	13:00~15:00	メイクアップ講座	8	72.7%	4		4	1	3	1	2			
<b>令和元年度</b>		<b>在籍女子学生数</b>		<b>10</b>										
7月3日(水)	13:00~14:30	茶話会	9	90.0%	8		4		5	1	5	2		
12月20日(金)	13:00~16:00	スイーツピザ作り	7	70.0%	3		3		4		3			
3月11日(水)	13:00~15:00	送別会	6	60.0%	6		3		3	1	3	2		
<b>令和2年度</b>		<b>在籍女子学生数</b>		<b>10</b>										
5月27日(水)	13:00~14:00	顔合わせ会	9	90.0%	5	1	5		3	1	2		2	
10月28日(水)	15:00~16:30	ケーキとビンゴゲームでの懇親会	10	100.0%	4	1	5		4	1	2	1		
12月3日(木)	13:00~16:00	クリスマスリースの制作	10	100.0%	2	1	5		4	1	1			
2月24日(水)	15:30~16:45	建設業協会との合同女子会	10	100.0%	1		5		3	1				
3月18日(木)	12:00~15:00	送別会	7	70.0%	2	1	3		3	1		1		
<b>令和3年度</b>		<b>在籍女子学生数</b>		<b>14</b>										
4月14日(水)	13:00~15:00	顔合わせ会	14	100.0%	6	2	6	1	5	1	2		3	
7月14日(水)	14:30~16:30	体育館でスポーツ	12	92.3%	3	1	6		4	1	1	1		

2年生からの実体験を踏まえたアドバイスに1年生が真剣な表情で耳を傾ける姿が見られる。(写真5-1)  
また、女子会への要望も多数上がるなど、その年の女子会の方向性を確認する会にもなっている。

年度末は、4月から新たな環境での生活が始まる2年生へ感謝の気持ちを伝え、1年生へ勉強や学校生活のアドバイスを伝える送別会として実施している。(写真5-2)



写真5-1 顔合わせ会



写真5-2 送別会

## 5.2 季節に合わせた企画

毎年12月には、当校の玄関をクリスマスの雰囲気にも明るく彩り、学生や職員、来校者の目を楽しめたいと、校内活性化につながる取り組みとして、クリスマスリースを作成し校内に設置したり、玄関のガラスにクリスマスデコレーションを行っている。(写真5-3)

また夏には、浴衣を着て周辺地域の方と交流できる場へ積極的に出掛け、学外の生活も充実させてほしいと考え、ワークショップ「浴衣の着付け」を実施した。(写真5-4)



写真5-3 校内のクリスマスデコレーション



写真5-4 浴衣の着付け

### 5.3 職業意識向上のための企画

学生から上がった要望をもとに、就職活動および就職後に向けた準備として企画されたメーキャップ講座（写真5-5）では、自分の印象をよくするメイクを学んだ。学生が生き生きとした表情で、積極的に参加して楽しむ様子が見られた。

令和2年度には、地元建設業協会と合同での女性交流会を実施し、就活のことや建設業界で働くこと、結婚・出産による働き方の変化、仕事以外の過ごし方等、多くの質問にざっくばらんに答えていただいた。（写真5-6）



写真5-5 メーキャップ講座



写真5-6 女性交流会

## 6. 女子会の効果

これまでに開催された女子会によってもたらされた効果について整理すると、働くことや働き方などを学生自ら考え選択できるよう職業観や就労意識を形成すること、学生同士や職員、また地域と交流を持つことで安心した学校生活が送れること、学びやすい環境を整備することの3つに大別できる。（図6-1）そして、これらの効果が相互に影響しあうことよって、学生の不安解消および女子学生の応募拡大につながっている。

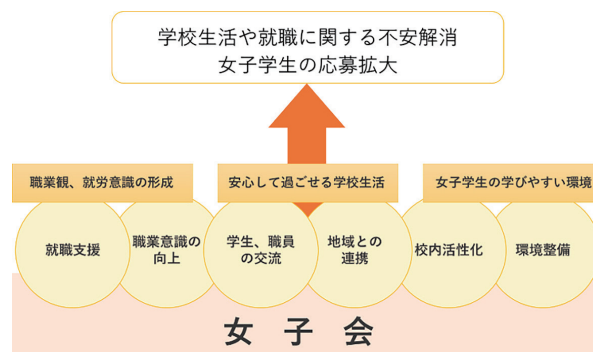


図6-1 女子会の効果

### 〈職業観、就労意識の形成〉

#### 6.1 就職支援

履歴書等の書類の書き方や、面接指導などの基本的な就職支援は、学校行事として全学生を対象に行っているため、女子会では独自の企画を実施した。その一つが学生要望の「メーキャップ講座」である。社会人として仕事をする上で、自分が周囲の人に与える印象は重要であることを認識し、メイクのポイントについて学んだ。就職活動および就職後に向けた準備になったことに加えて、今まで化粧をしていなかった学生が翌日から化粧をして登校し、以前よりも明るい表情を見せることが増えるなど、学生の意識や学校生活にも変化が見られた。また、社会人と交流できる機会としても意義があり、地元企業から派遣された講師と接し、先輩社会人の姿をみることで、その振る舞いや言葉遣いなど、学生と社会人との違いを体感できる場となった。今後は「社会人としての服装やオフィスカジュアルについて知りたい」や「カラーコーディネートを教えてほしい」などの要望が上がっている。

#### 6.2 職業意識の向上

やりたいことが明確で、率先して就職活を進められる学生は少なく、多くの学生は自分が何をしたいかわからない、やりたいことはあるけど自分のできるのか不安といった状態でなかなか就職活動の一步を踏み出せないでいる。そこで、社会人との交流を通じて、学生が具体的に働くことについて考えることができる場として、江津市建設業協会との女性交流会を実施した。

## 【江津市建設業協会との女性交流会】

ここで、職業意識の向上や就職支援の一環として実施した、当校の女子学生と江津市建設業協会の会員企業に勤務する女性職員との交流会についてより詳しく述べることにする。

### (1) 交流会の目的

当校の女子学生と建設業に携わる女性社員の方々が、お互いの声で話せる場とし、学生には職業選択や就職活動に関する不安解消の場として、女性社員の方にとっては仕事や企業について学生に知ってもらう機会として活用することを目的とする。この交流会への参加で生じることが考えられるメリットは、次の通りである。

#### ●建設業協会 企業側のメリット

- ・仕事や企業について学生に知ってもらう機会であり、自社の情報発信ができる。
- ・江津市建設業の人材確保につながる。
- ・会社説明会や面接ではみえない、素の姿で互いを確認できる。
- ・学生から、建設業や仕事に対するリアルな声を聴くことができる。
- ・建設業で働く他社女性社員の現状や悩み等リアルな声を聴き、情報の交換、共有ができる。
- ・建設業で働く女性社員同士のつながりをつくるきっかけとなる。

#### ●学生のメリット

- ・社会人との交流によって、社会人の考え方に触れ、社会の仕組みを理解できる。
- ・社会人のリアルな話を聞くことで、さまざまな企業や職種に興味関心がわく。
- ・自分の思い込みや勘違いを正し、より具体的に働くことについて考えられるようになる。
- ・女性としての働き方について具体的なイメージが持てるようになる。
- ・結婚、出産等のライフイベントによる働き方の変化についてイメージが持てるようになる。

### (2) 実施概要

開催日 令和3年2月24日（水）

開催時間 午後3時30分～午後4時45分（75分間）

参加者 江津市建設業協会 5社 8名  
（建築技術職5名、土木技術職1名、事務職2名）  
島根職業能力開発短期大学校 学生8名  
（住居環境科1年生 5名、2年生 3名）

#### プログラム

- ①自己紹介（10分）
- ②ミニゲーム（15分）
- ③質問タイム、フリートーク（1回目）（20分）
- ④2グループに分かれて実施。1回目終了後は学生がグループを移動。
- ⑤質問タイム、フリートーク（2回目）（20分）

### (3) 交流会の様子

初めに参加者全員、簡単な自己紹介をした。最初は緊張している様子もみられたが、2グループに分かれてミニゲームで対戦すると、参加者からは自然と笑いや会話が生まれ、各グループとも打ち解けた雰囲気になった。続いて、その雰囲気のままケーキを囲んだ質問タイム、フリートークを行った。学生はいろいろな方の意見を聞いたり、一つの質問からどんどん話が進展してさまざまな質問につなげたりと、積極的に交流会に参加していた。（写真6-1）



写真6-1 女性交流会の様子

結婚や出産といったライフイベントが自分のキャリアにどう影響するか、事務職が企業の中でどのような役割を果たしているか、転職経験者に対しては、建設業に転職したメリットや転職の経緯、また仕事と私生活のバランスなど、具体的な内容で、学生がこれまで本当に知りたかったがなかなか聞ける場がなかったような質問が多く出ていた。企業参加者の皆さんは、学生のさまざまな質問に対して、優しくまた本音で回答していただいた。皆さんが生き生きとした表情で、楽しそうに「働くこと」についてお話しされる姿を見て、学生たちは建設業界で働くことに対する魅力を感じ、同時に、就職に対する不安の解消につながったようだ。企業参加者から「自分が学生のときにこういう交流会があれば、就職活動のとき迷わなかったのに」との感想もあり、本交流会が充実した内容であったことがうかがえた。

#### (4) 情報発信

本交流会の様子は、当校のSNSで情報発信するだけでなく、マスメディアや江津市役所から取材を受け、新聞にとりあげられた。(写真6-2, 3) 女子会の取り組みを県内外や地域に広く知らせることができた。

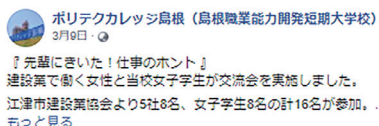


写真6-2 当校Facebook



写真6-3 山陰中央新報 2021年3月1日

#### (5) アンケート結果

回答者14名（建設業協会 8名、学生 6名）

##### ① 今回の交流会の感想について

回答（抜粋）	Q1 今回の交流会の感想をお聞かせください
学生	建設業界で働く女性のリアルな話が聞けて良かった
	話しやすい雰囲気だった 事務職の話をもっと聞きたかった
建設業	学生が積極的に質問し、将来に向けて色々と考えていることが分かった
	はきはきとしゃべる学生の印象が良かった
	将来江津市で働きたいと思えるような会であってほしい
	他社の方と話す機会が持ててよかった 先輩方の話を聞いて勉強になった

全回答者から有意義な時間だったと好評であった。

学生は、話しやすく聞きやすい雰囲気の中で、社会人の方から働くことについてのリアルな話を聞くことができたようだ。「就職後のイメージが持てた。」や「仕事に対する意識が良いほうへ変化した。」との感想から、将来の職業生活を具体的にイメージでき、交流会が仕事に対する意識づけの場になったことがわかる。

企業参加者には、学生が積極的に質問する姿や、将来についていろいろと考えている姿に好印象を持っていただいた。「建設業界に女性が増えるのはとてもうれしく思う」や「一人でも多く一緒に江津市で働けたら良いと思う」という学生へ期待する声もあった。また入社3年目の若手社員は、建設業界内の先輩の話から「自分自身いろいろと学ばせてもらった」と、建設業で働く女性社員同士の交流の場としても有意義だったことがわかる。

##### ② 今回の課題について

回答（抜粋）	Q2 今回の交流会で、もう少しこうしたほうが良かったなどの課題についてお聞かせください
学生	グループに分かれての質問形式だったので話しやすかった 最後に全体で話す機会が欲しかった
	もう少し時間が欲しかった
建設業	学生への質問もなかった

企業参加者ほとんどの方が「時間が短かった」としている。今回は学生からの質問に回答してもらった形式だったため、もう少し時間に余裕があれば「もっと深い話ができた」や「学生へ質問したかった」との声があるように、企業側の声を伝える時間をとることができ、内容の充実が図れたと考えられる。学生は、交流会の時間について全員が「ちょうどよい」と回答していたが、一方で「もう少し知りたいことがある」や「参加者全体で話を聞く時間が

欲しかった」との意見もあり、次回以降の実施時間については検討が必要である。

### ③ 今後の交流会について

Q3 今後、交流会にどのような内容を希望しますか	
学生	営業や設計など他職種の方とも話してみたい 企業のアピールがあってもいいと思う
建設業	実際に働く現場を見てもらったり、何か体感できるような機会の提供 企業同士の交流会をしたい 高校生も交流の場を持ちたい

学生からは、設計や営業など今回参加のなかった職種の方から話が聞きたいなど、次の交流会に対して積極的な意見があった。

企業参加者からは、今後も学生との交流会や建築を実際に見て、体験できる機会の提供を望む声があり、この会を通して建設業に携わる女性、そして江津市で働く女性が増えることを期待していることがわかる。また建設業協会内でも、他社の女性社員とのつながりを持てる場を望む声が多かった。

## (6) 次回に向けた検討事項

### ① 実施時間の検討

プログラムに関してはおおむね好評だったが、時間が短すぎるとの指摘が多くあった。今回は、当校の学校行事の都合により、開始時間が午後3時30分となった。建設業協会の方たちは業務として参加しており、午後5時までの就業時間内に帰社できるよう、終了時間を午後4時45分とした。このような事情から、実施時間が75分と短くなり、自己紹介も簡単な形でしかできなかつたり、質問時間は話が盛り上がっているところで終了せざるを得なかつたりと、全体的に慌ただしくなってしまった。ゆっくりと質問に答えられる時間をとり、より深い話ができるよう、最低でも2時間は実施時間として確保したい。行事等によって時間が制限されないよう、早めの日程確保も必要である。

### ② さまざまな企画の実施

今回のような形式だけでなく、現場見学や一緒に何かできる機会があると、建設業に対してより具体的なイメージが持てるだろう。

## ●建設業への就職につながるもの、県内就職につながるもの

(現場見学会、完成見学会、モデルハウス見学、職場見学など)

建設業の現場を見て働くイメージを具体的に持つことができ、また、施工途中・完成後の建築物を技術者と一緒に見ることでより建築に興味をもつことができるかと期待する。実際に見たり、体験できる機会をもつ体験型の交流会は、日頃学んでいる建築の知識をより深める勉強の機会であり、職場環境や働き方を見学し、企業を知ることができる就職活動でもあるため、学生にとって大変有意義なものとなるだろう。また建設業協会にとっては、地域での人材確保につながる取り組みになると考える。

## ●当校の応募者増加につながるもの

(江津工業高校、島根短大校、建設業協会の合同交流会など)

近隣の高校生も加えた交流会を実施することで、高校生が建設業に興味をもち、就職の選択肢に建設業が入ること、また当校の学生と話すことで、進学という選択肢についても考えてもらうことができる。卒業後すぐ就職する場合と進学後に就職する場合について、それぞれの有利な点、不利な点について情報を得ることができ、また、それぞれについて直接聞いてイメージできることは、失敗のない進路選択と、進学後または就職後のミスマッチを防ぐためにも、有意義であると考えられる。学生には、具体的にどのような勉強をしているかや学校の様子、資格取得についてなど積極的に話してもらい、当校が交流会の会場となる場合には、学生の案内で行う施設見学をプログラムに組み込むなど、学校のPRになるような工夫をして実施することで、応募者増加につながることを期待できる。同時に企業に対してのアピールにもなり、当校への求人増加も期待できる。

## ＜安心して学べる学校生活＞

### 6.3 学生間の交流、職員との交流

学生のほとんどは学生寮で生活しており、寮内で顔を合わせる機会も多いはずだが、学年が異なれば



顔見知り程度の関係だという。また学生寮に入寮していない通学生は、学年や科をこえた交流をもつことは特に難しくなってくる。女子会が趣味や相談ごとも含めたさまざまな話題で話せる場を提供し、学生は積極的に学生同士での交流を図っている。

現在女子会は、どんな企画でも毎回会話と笑いが絶えないため、学生にとってささいなことでも気兼ねなく本音で話せる場となっている。女子会終了後には、趣味仲間や同じ科の先輩後輩で連絡先を交換する姿がみられ、その後学生から「寮の談話室に集まった」や「女子会のグループLINEで連絡を取っている」など交流を持つ様子を聞くことで、女子会が学生同士の関係構築のきっかけの場として機能していることを再認識できる。入校後の早い時期から、学生同士で気軽に話せる関係を構築できる場を提供することで、学校生活や寮生活などで生じる軽微な心配事が、大きな不安に育つ前に対処できる可能性は大きくなる。

#### 6.4 職員との交流

女子会は、学生と職員が交流できる場としての役目もある。それと同時に、女子会では普段とは異なる学生の素の姿が垣間見えるため、職員にとっては、学生の学校生活の状況や趣味・関心、人間関係、学校や学生寮の環境での困りごとなどを、全部とはいかないがある程度把握できる情報収集の場にもなる。これらの情報は、学校や職員が学生の支援を適切に行うための手掛かりとなり、また自身の担当する業務に反映できる学生からの貴重な意見にもなる。そのため授業を担当する指導員に限らず、普段学生と接点の少ない職員も女子会に関わることは大いに意義があり、性別や業務内容を問わず多くの職員が関わることで、学校全体でサポートする姿勢を学生に意識づけすることができるだろう。ただ、女性同士だから話しやすいという内容や場面もあるため、時には男性の参加を制限する等の配慮は必要である。

#### 6.5 地域との連携

地域連携とは、女子会を通して地域とのつなが

りを持ち、交流を深めることだと考える。これまでも、浴衣の着付けでは、地域の美容師の方にボランティアで講師をお願いしたり、メーキャップ講座でも地域の化粧品販売会社にご協力いただいたりと、地域の方と交流を持てる機会を設けてきた。建設業協会との女性交流会も地域企業の魅力を伝える地域連携の一つである。また、さまざまな場で女子会について積極的に情報発信することによって、江津警察署から女子会の企画として「護身術」講座の提案や、近隣の高校から女子会について問い合わせをいただくなど、地域の方からも関心を持っていただける取り組みになりつつある。

#### 〈学びやすい環境〉

##### 6.6 校内環境の整備

女子学生の声を参考に、これまで行き届かなかった校内環境の整備を順次行っている。例えば、更衣室の中に外からのぞけないような目隠しや、着替えブース、また学生寮のトイレに擬音装置を設置した。まだまだ十分ではないが、学生の要望は、学校側では気づきにくいことも多く、これらの要望に対応できるよう今後も環境整備を継続していきたい。学生の声を学校側に伝える窓口を増やすという意味でも、繰り返しになるが、学生と関わる機会の少ない職員も女子会に積極的に関わって学生と交流を持つことは必要だと考える。

#### 〈応募拡大〉

##### 6.7 女子学生の応募拡大

女子会の様子を外部に広く伝えることで、女子学生でも安心して学べる環境であることをアピールした。平成30年には女子会の様子取材したリーフレットを作成し、広報に広く活用した。(図6-2)女子会の取り組みを紹介するもので、女子学生が好みそうな色調やデザインになっていて、当校のイメージアップにもつながった。

令和2年度からは、女子会の様子について、当校のSNSを通じて情報発信を行っている。投稿記事は、女子会で出た学生の意見を参考に、地域やものづくりについてなどの単語をタグ付けし、多くの人

の目に留まるよう作成。また記事内容と投稿時期に時差が生じないように、タイムリーな発信を心掛けている。



図6-2 広報用リーフレット

このような広報活動の効果もあり、女子会開始以降の令和2年度入校の応募者数をみると、応募者の女子割合は前年より8.4ポイント増加し15.4%となった。(図6-3) 応募者数にも女子会の効果がみえる。今後も女子会やその情報発信を継続していくことで、ますますの応募者の増加が期待できる。

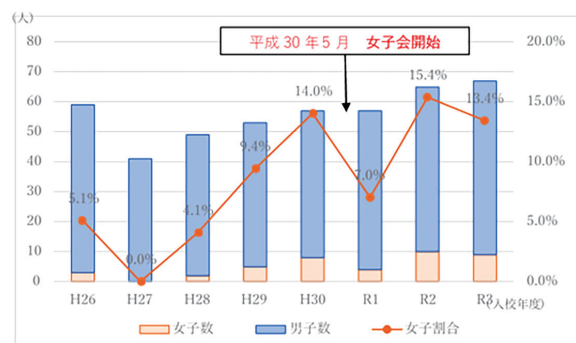


図6-3 入校年度別当校応募者数と女子の割合

## 7. 総括

女子会は学生に対してさまざまな交流を提供する場で、満足度の高い学校生活が送れるよう学校生活支援を行うだけでなく、就労意識および職業観の形成においても大きな役割を果たしていることが確認できた。

### 7.1 働くことについて考える

建設業協会との女性交流会は「働くこと」の意識づけの場となった。企業参加者との交流を通して、目標をもって働く姿や仕事のやりがい、また業務の流れや組織の中で担う役割などを知ることで、学生は将来社会に出て自分が「どのように働くのか」を具体的にイメージできた。また、会社説明会や面接の場では聞きたくても聞けない疑問や不安を解消できた。

実際に働く人の声は、現実味を持った言葉として学生に届くためその影響力は大きく、特に学生が自身の職業生活を考える就職活動初期の段階においては、企業参加者が学生にとって「働く女性」のロールモデルとなるだろう。学生はこの存在によって、より明確に「働くこと」について考えられるようになり、自身の将来に向かう道筋を見つけることができる。

### 7.2 女性の就労のあり方を知る

さらに就職活動が進むと、女子学生は自身のキャリアプランを描いていくと、ライフイベントによって生じるさまざまな不安に直面することになる。そ

これは、結婚や出産、育児休暇取得により一時的に職場を離れるとき、復帰後に自身のキャリアへ及ぶ影響や、家庭と仕事との両立に対する不安である。学生が、当校の二年間の学びで技術を身に付けてものづくりの現場に出た後、結婚・出産・育児を経ても働き続けることができること、また柔軟な働き方があることなど「女性の就労のあり方」について、働く女性との対話を通して知ることができる場であることも、女子会・女性交流会の大きな意義である。

将来的には、女子会を通して職業観を身に付けた学生が、社会に出てものづくりの現場で活躍することで、その姿が後輩女子学生の目標となり、また会社内の後輩にとってはキャリアパスのロールモデルとなれるだろう。

### 7.3 地域への貢献

女子会は当校内だけの取り組みから、地元地域へも波及している。江津市建設業協会では当校との女性交流会をきっかけに、令和3年5月女性活躍推進委員会を設立した。まだまだ建設業で働く女性は少なく、女性交流会アンケート結果で女性社員が企業同士のつながりを求める意見があったことからわかるように、所属する会社は違って、同じ業界で働く先輩、後輩としてお互いに学びあえる環境は必要だろう。このように女性同士で技術に関する意見交換や情報、悩みなどを共有できる場としても女子会・女性交流会は有意義である。建設業協会の女性交流の場設立につながったという点で、当校女子会の取り組みは地元建設業の発展に一役買うことができた。

今後女性交流会は、近隣の工業高校の女子生徒と合同での実施や、島根県浜田地区建設業協会などにも対象を拡大するなど、より多くの参加者での実施を目指し、地元建設業を盛り上げ、建設業の人材確保につながる取り組みにしていきたい。

## 8. おわりに

女子会の活動を通して、当校が地域から必要とされる学校として存在価値を上げていくことで、近

い将来、当校への女性入校者が増え、女性技術者を地元へ送り出せるという良い循環が生まれることを期待して、今後も女子会の取り組みを継続していきたい。そして、一人でも多くの当校出身の女子学生が、ものづくり女子として活躍することを期待している。

最後に、本取り組みにご協力いただいた関係者の皆さま、本稿執筆にあたりご助言・ご指導いただきました皆さまに深く御礼申し上げます。